

平成30年～令和4年度  
劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)  
成果報告書

団 体 名	公益財団法人びわ湖芸術文化財団 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール		
施 設 名	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール		
助 成 対 象 活 動 名	びわ湖ホール三方よし創造実践事業		
助 成 期 間	5		(年間)
内 定 額	平成30年度	54,425	(千円)
	平成31年度	52,233	
	令和2年度	50,990	
	令和3年度	50,037	
	令和4年度	53,629	

# 1. 事業概要

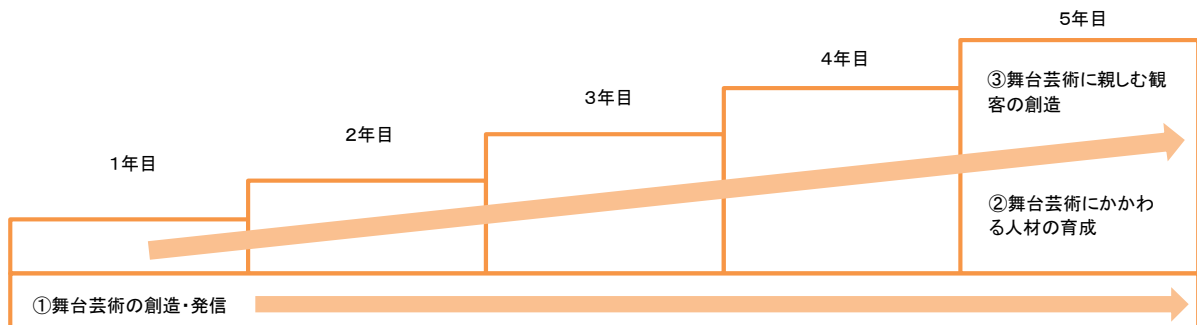
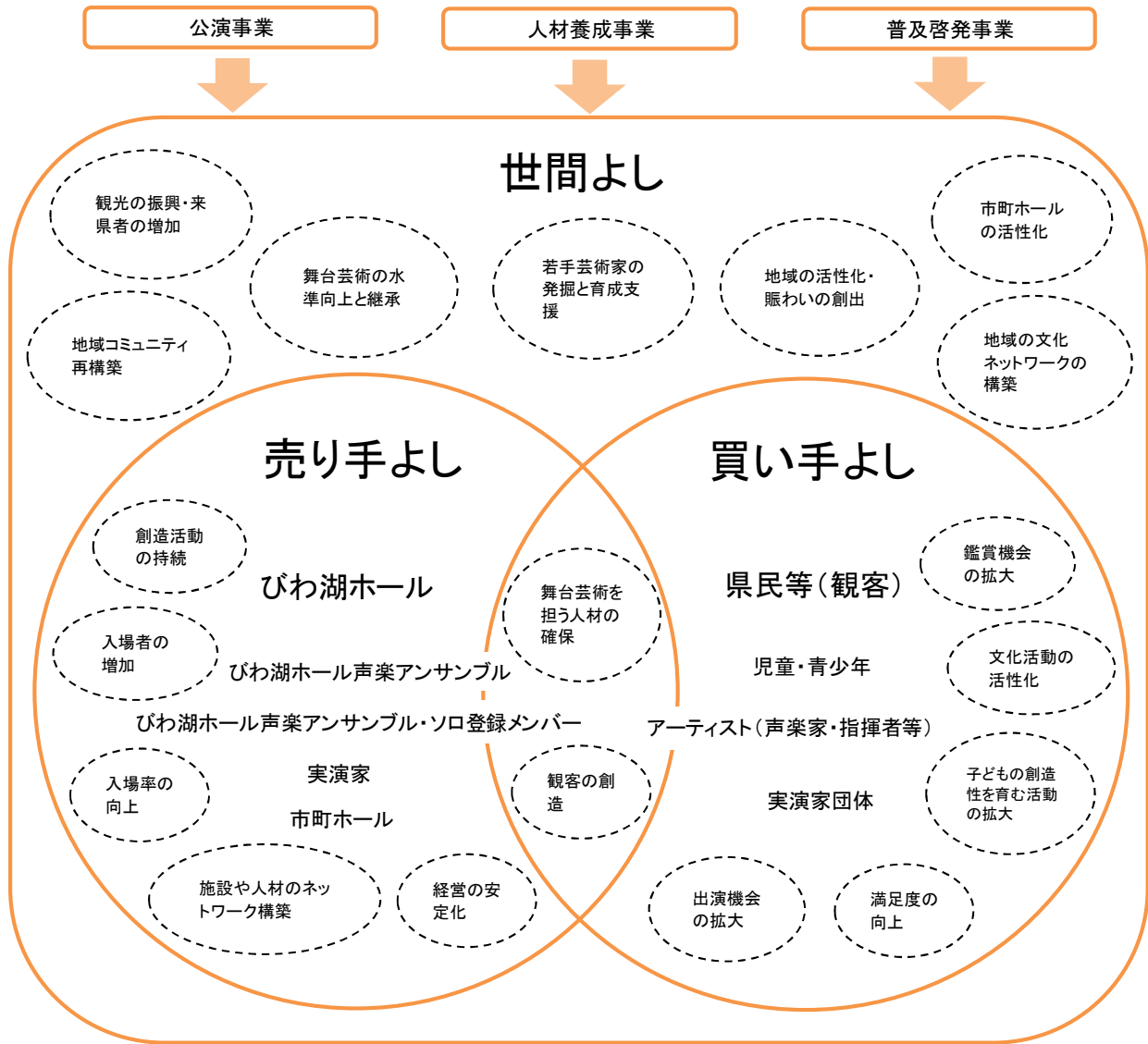
## (1) 事業計画の概要

### 全体図（概念図）

#### （事業名）びわ湖ホール三方よし創造実践事業

近江商人の発祥の地、滋賀では、近江商人が商売の心得とした「三方よし」（「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」を三つの「よし」とし、売り手と買い手がともに満足し、また社会貢献もできるのがよい商売であるということ）の精神が息づいています。

びわ湖ホールは、この「三方よし」になぞらえて、売り手（びわ湖ホール）と買い手（県民をはじめとする観客）がともに満足し、また世間よし（地域の活性化、舞台芸術の水準向上と継承）を目指し、「①舞台芸術の創造・発信」「②舞台芸術にかかわる人材育成」「③舞台芸術に親しむ観客の創造」を目標に公演事業および人材養成事業、普及啓発事業に取り組みます。



公演事業

人材養成事業

普及啓発事業

2018年度

- ・プロデュースオペラ「ジークフリート」
- ・英国パーミンガム・ロイヤルバレエ
- ・フィリップ・ドゥクフレ/DCA
- ・ジルヴェスター・コンサート2018-2019
- ・スタンウェイ“ピノ”シリーズvol.5

- ・沼尻竜典オペラ指揮者セミナーⅣ
- ・イタリア声楽曲研修Ⅰ
- ・舞台技術研修

- ・地域協働公演オペラ「森は生きている」
- ・びわ湖ホール音楽会へ出かけよう!
- ・子どものための管弦楽教室 第15回
- ・気軽にクラシック
- ・アンサンブルの楽しみ～演奏家のつどい～vol.10
- ・ロビーコンサート
- ・各種講座
- ・ふれあい音楽教室
- ・学校巡回公演
- ・バックステージツアー

2019年度

- ・プロデュースオペラ「神々の黄昏」
- ・海外招聘バレエ・ダンス
- ・ジルヴェスター・コンサート2019-2020
- ・スタンウェイ“ピノ”シリーズvol.6
- ・びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演
- ・びわ湖ホール声楽アンサンブル東京公演
- ・びわ湖ホール四大テノール公演

- ・沼尻竜典オペラ指揮者セミナーⅤ
- ・イタリア声楽曲研修Ⅱ
- ・舞台技術研修

- ・地域協働公演
- ・びわ湖ホール音楽会へ出かけよう!
- ・子どものための管弦楽教室 第16回
- ・気軽にクラシック
- ・アンサンブルの楽しみ～演奏家のつどい～vol.11
- ・ロビーコンサート
- ・各種講座
- ・ふれあい音楽教室
- ・学校巡回公演
- ・バックステージツアー

2020年度

- ・プロデュースオペラ
- ・海外招聘バレエ・ダンス
- ・ジルヴェスター・コンサート2020-2021
- ・スタンウェイ“ピノ”シリーズvol.7
- ・びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演
- ・びわ湖ホール声楽アンサンブル東京公演
- ・びわ湖ホール四大テノール公演

- ・沼尻竜典オペラ指揮者セミナーⅥ
- ・イタリア声楽曲研修Ⅲ
- ・舞台技術研修

- ・地域協働公演
- ・びわ湖ホール音楽会へ出かけよう!
- ・子どものための管弦楽教室 第17回
- ・気軽にクラシック
- ・アンサンブルの楽しみ～演奏家のつどい～vol.12
- ・ロビーコンサート
- ・各種講座
- ・ふれあい音楽教室
- ・学校巡回公演
- ・バックステージツアー

2021年度

- ・プロデュースオペラ
- ・海外招聘バレエ・ダンス
- ・ジルヴェスター・コンサート2021-2022
- ・スタンウェイ“ピノ”シリーズvol.8
- ・びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演
- ・びわ湖ホール声楽アンサンブル東京公演
- ・びわ湖ホール四大テノール公演

- ・沼尻竜典オペラ指揮者セミナーⅦ
- ・フランス歌曲研修Ⅰ
- ・舞台技術研修

- ・地域協働公演
- ・びわ湖ホール音楽会へ出かけよう!
- ・子どものための管弦楽教室 第18回
- ・気軽にクラシック
- ・アンサンブルの楽しみ～演奏家のつどい～vol.13
- ・ロビーコンサート
- ・各種講座
- ・ふれあい音楽教室
- ・学校巡回公演
- ・バックステージツアー

2022年度

- ・プロデュースオペラ
- ・海外招聘バレエ・ダンス
- ・ジルヴェスター・コンサート2022-2023
- ・スタンウェイ“ピノ”シリーズvol.9
- ・びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演
- ・びわ湖ホール声楽アンサンブル東京公演
- ・びわ湖ホール四大テノール公演

- ・沼尻竜典オペラ指揮者セミナーⅧ
- ・フランス歌曲研修Ⅱ
- ・舞台技術研修

- ・地域協働公演
- ・びわ湖ホール音楽会へ出かけよう!
- ・子どものための管弦楽教室 第19回
- ・気軽にクラシック
- ・アンサンブルの楽しみ～演奏家のつどい～vol.14
- ・ロビーコンサート
- ・各種講座
- ・ふれあい音楽教室
- ・学校巡回公演
- ・バックステージツアー

舞台芸術の創造・発信  
(自主制作公演・海外招聘公演の上演)

舞台芸術にかかわる人材育成  
(声楽アンサンブル、オペラ指揮者の育成)

舞台芸術に親しむ観客の創造  
(青少年や児童の入場者の増加)

びわ湖ホール「三方よし」の実現

## (2) 令和4年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	びわ湖ホール プロデュースオペラ ワーグナー作曲『ニュルンベルクのマイスタージンガー』	令和5年3月2日、5日	指揮：沼尻竜典、ステージング：粟國淳、管弦楽：京都市交響楽団、出演：青山貴、妻屋秀和 ほか	目標値	2,473
		びわ湖ホール大ホール		実績値	2,831
2	名曲コンサート①「日本センチュリー交響楽団」 ②「前橋汀子」	①令和5年2月5日、②令和4年6月11日	①指揮：ニコラス・ミルトン、管弦楽：日本センチュリー交響楽団、②前橋汀子、ヴァハン・マルディロシアン	目標値	2,481
		びわ湖ホール大ホール		実績値	2,038
3	ジルヴェスター・コンサート2022	令和4年12月31日	指揮：沼尻竜典、司会：桂米團治、管弦楽：大阪交響楽団、構成：中村敬一、演目：『ばらの騎士』組曲 ほか	目標値	1,497
		びわ湖ホール大ホール		実績値	1,264
4	びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演	令和4年9月10日、19日、11月19日	びわ湖ホール声楽アンサンブル、 【9/10、19】指揮：本山秀毅、【11/19】指揮：大川修司	目標値	1,454
		びわ湖ホール小ホールほか		実績値	979
5	大人の楽しみ方	令和4年10月23日、令和5年2月19日	【10/23】和谷泰扶、松尾俊介、【2/19】石塚隆充、石塚まみ、コモブチキイチロウ、大儀見元	目標値	479
		びわ湖ホール小ホール		実績値	522
6	室内楽月間	令和4年6月10日、18日	新型コロナウイルス感染症の影響で、令和4年5月20日、28日の公演を中止した。	目標値	1,021
		びわ湖ホール小ホール		実績値	485※
7	沼尻竜典オペラ指揮者セミナーⅧ～『フィガロの結婚』～	令和4年7月1日、2日、3日	講師：沼尻竜典、管弦楽：大阪交響楽団、受講者：井手奏、大森大輝、佐々木奏平、高木玲音、馬場武蔵	目標値	357
		びわ湖ホール大ホール		実績値	550
8	イタリア声楽曲研修Ⅲ	令和4年7月24日、25日、26日	講師：山崎美奈、受講者：びわ湖ホール声楽アンサンブル・メンバー	目標値	200
		びわ湖ホール小ホール		実績値	344
9	令和4年度 びわ湖ホール舞台技術研修 ～人材育成講座～	令和5年3月18日	受講者：一般受講生、連携大学参加学生、出演：一般出演者（オーディションによる公募）	目標値	350・100
		びわ湖ホール中ホール		実績値	370・100
10	スタインウェイ“ピノ”シリーズ vol.8 日本語とうた～言葉としての日本語、そして日本のうた～ 山田耕筰	令和5年1月15日	ピアノ・解説：河原忠之、出演：栗原末和（ソプラノ）、益田早織（メゾソプラノ）、清水徹太郎（テノール）	目標値	255
		びわ湖ホール小ホール		実績値	281
11	びわ湖ホール 音楽会へ出かけよう！（ホールの子事業）	令和4年6月1日ほか	指揮：川瀬賢太郎、管弦楽：京都市交響楽団、司会・独唱・合唱：びわ湖ホール声楽アンサンブル	目標値	10,000
		びわ湖ホール大ホール		実績値	10,781
12	子どものための管弦楽教室	令和5年3月21日	指揮：藤岡幸夫、管弦楽：関西フィルハーモニー管弦楽団、司会：空井仁美、演目：ラデツキー行進曲 ほか	目標値	1,062
		びわ湖ホール大ホール		実績値	1,223
13	気軽にクラシック	令和4年9月14日ほか	9/14：中山航介、11/3：津國直樹、12/12：関西弦楽四重奏団、1/22：船越亜弥、2/11：京都しんぷおにえった	目標値	1,084
		びわ湖ホール小ホールほか		実績値	1,577

14	アンサンブルの楽しみ～ 演奏家のつどい～	令和4年9月24日	司会：福見和彦、出演：一般公募により選出した11組、ゲスト：伊藤 瑳紀、増山頌子、屋野晴香	目標値	210
		びわ湖ホール小ホール		実績値	305
15	びわ湖ホール ロビーコ ンサート	令和4年度月1～2回	新型コロナウイルス感染症の影響 で公演を中止した。	目標値	
		びわ湖ホールメインロビー		実績値	- ※
16	ホスピタルコンサート	令和5年3月17日	新型コロナウイルス感染症の影響 で、当初予定していた3施設のう ち、2施設での公演を中止した。	目標値	
		済生会滋賀県病院		実績値	120※
17	各種講座（オペラ講座・ ワークショップ等）	令和4年4月23日ほか	講師：青山登志和、東条碩夫、藤野 一夫、伊東史明、岡田安樹浩、沼尻 竜典、岡田暁生、粟國淳	目標値	892
		びわ湖ホールリハーサル室ほか		実績値	1,127
18	ふれあい音楽教室	令和4年9月から12月	出演：びわ湖ホール声楽アンサンブ ル、ピアニスト	目標値	
		滋賀県内小学校		実績値	2,389
19	学校巡回公演	令和4年5月10日ほか	出演：びわ湖ホール声楽アンサンブ ル、指揮者、ピアニスト、演目：翼 をください ほか	目標値	2,300
		滋賀県内小中学校		実績値	1,309
20	バックステージツアー 「びわ湖ホールまるっと ステージツアー」	令和5年1月6日、7日	案内：びわ湖ホール職員、参加者： ホームページにて公募、内容：舞台 の設備・楽屋の体験	目標値	108
		びわ湖ホール大ホール		実績値	112

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和3年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	びわ湖ホール プロデュー スオペラ ワーグナー作 曲『パルジファル』	令和4年3月3日、6日	構成：伊香修吾、指揮：沼尻竜典、 管弦楽：京都市交響楽団、出演：福 井敬、妻屋秀和、青山貴 ほか	目標値	2,672
		びわ湖ホール大ホール		実績値	1,993
2	名曲コンサート	令和4年1月8日、2月6日	【1/22】指揮：鈴木優人、管弦楽： 日本センチュリー交響楽団【2/6】竹 澤恭子、宮田 大、田村 響	目標値	2,405
		びわ湖ホール大ホール		実績値	1,586
3	ジルヴェスター・コンサ ート2021	令和3年12月31日	指揮：阪 哲朗、管弦楽：大阪交響楽 団、ヴァイオリン：三浦文彰、司会： 桂 米團治	目標値	1,497
		びわ湖ホール大ホール		実績値	1,077
4	びわ湖ホール声楽アンサ ンプル定期公演	令和3年11月6日、7日、 令和4年3月26日	【73回、東京公演】指揮：沼尻竜典、 ピアノ：渡辺治子、越知晴子【74回】 指揮：園田隆一郎、弦楽による伴奏	目標値	1,624
		びわ湖ホール大ホール 東京文化会館小ホール		実績値	843
5	大人の楽しみ方	令和3年7月17日、10月3 日、31日、11月27日(中止)	【7/17】ピアノ：小曾根 真【10/3】シタ ール：石濱匡雄、タブラ：U-zhaan【10/31】 山中千尋トリオ【11/27 中止】アヌーナ	目標値	3,286
		びわ湖ホール大ホー ル、小ホール		実績値	1,701
6	松山バレエ団「ロミオとジ ュリエット」	令和3年9月25日	ジュリエット：森下洋子、ロミオ： 大谷真郷、台本・構成・演出・振付： 清水哲太郎	目標値	1,345
		びわ湖ホール大ホール		実績値	886
7	スタインウェイ “ピノ” シリーズ vol.7	令和3年10月16日	ピアノ・構成：河原忠之、出演：び わ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ 登録メンバー、演目：『夕鶴』 ほか	目標値	255
		びわ湖ホール小ホール		実績値	213
8	林康子 声楽曲セミナー	令和3年11月16日～ 18日	講師：林 康子、受講者：びわ湖ホー ル声楽アンサンブル・メンバー	目標値	200
		びわ湖ホール小ホール		実績値	305
9	令和3年度 びわ湖ホー ル舞台技術研修 ～人 材育成講座～	令和4年3月19日	演出家：ごまのはえ、振付：山田レ イ、受講者：近隣大学の学生、出演： 公募オーディションによる一般公募	目標値	350・100
		びわ湖ホール中ホール		実績値	304・129
10	オペラ指揮者セミナーⅦ ～『カルメン』指揮法～	令和4年4月10日～ 12日	講師：沼尻竜典、管弦楽：大阪交響 楽団、受講者：大森大輝、出口大地、 松川 創、松川智哉、森田真喜	目標値	357
		びわ湖ホール大ホール		実績値	557
11	びわ湖ホール 音楽会へ出 かけよう！（ホールの子事 業）	令和3年5月25日～28 日、31日、6月1日	指揮：沼尻竜典、管弦楽：京都市交 響楽団、出演：びわ湖ホール声楽ア ンサンブル、演目：ポレロ ほか	目標値	11,000
		びわ湖ホール大ホール		実績値	7,785
12	子どものための管弦楽教 室	令和4年3月21日	指揮：藤岡幸夫、管弦楽：関西フィ ルハーモニー管弦楽団、司会：空井 仁美、演目：スペイン奇想曲 ほか	目標値	944
		びわ湖ホール大ホール		実績値	975
13	気軽にクラシック	令和3年8月25日、2 月19日、3月13日	【8/25】ヴァイオリン：赤松由夏、ピアノ：北川恵 美【2/19】バス：松森 治、ピアノ：掛川歩美【3/13】 ソプラノ：黒田恵美、ピアノ：植松さやか	目標値	1,084
		びわ湖ホール小ホール		実績値	536

14	アンサンブルの楽しみ～ 演奏家のつどい～vol. 13	令和3年11月21日	出演者：公募により10組を選出、 ゲスト演奏：和谷泰扶（ハーモニ カ）、松尾俊介（ギター）	目標値	271
		びわ湖ホール小ホール		実績値	285
15	びわ湖ホール ロビーコ ンサート	実施なし	新型コロナウイルス感染症の影響 で公演を中止した。	目標値	1,800
				実績値	-(中止)
16	ホスピタルコンサート	令和3年11月9日、12月 4日、ほか4公演（中止）	【11/9】マリンバ・パーカッション： 深田瑞穂、國領愛歩【12/4】フルー ト：小林千晶、山本梨奈	目標値	200
		滋賀県立むれやま荘、 東近江敬愛病院、ほか		実績値	129
17	各種講座（オペラ講座・ ワークショップ等）	令和3年5月29日ほ か11回	講師：東条碩夫、岡田安樹浩、伊東 史明、藤野一夫、青山登志和、出演： 沼尻竜典、岡田暁生 ほか	目標値	892
		びわ湖ホール小ホール ほか		実績値	1,274
18	ふれあい音楽教室	令和4年1月から3月	出演：びわ湖ホール声楽アンサンブ ル	目標値	600
		滋賀県内小学校		実績値	963
19	びわ湖ホール声楽アンサ ンブル 学校巡回公演	令和3年5月6日、7日、 10日、11日、14日	出演：びわ湖ホール声楽アンサンブ ル	目標値	3,000
		滋賀県内小中学校		実績値	1,065
20	地域連携公演 子ども向 けオペラ「泣いた赤鬼」	令和3年11月18日	演出：中村敬一、指揮：大川修司、 ピアノ：掛川歩美、梁川夏子、出演： びわ湖ホール声楽アンサンブル	目標値	1,600
		守山市民ホール		実績値	1,256
21	バックステージツアー 「びわ湖ホールまるっと ステージツアー」	令和3年8月21日、 23日	参加者：ホームページにて公募、講 師：びわ湖ホール職員	目標値	162
		びわ湖ホール大ホール		実績値	104

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

#### (4) 令和2年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	びわ湖ホール プロデューズオペラ ワーグナー作曲 歌劇『ローエングリン』	令和3年3月6日、7日	演目：ワーグナー作曲『ローエングリン』。指揮：沼尻竜典、ステージング：栗國淳、新型コロナウイルスの影響でセミ・ステージ形式に変更。	目標値	2,672
		びわ湖ホール大ホール		実績値	2,243
2	ジルヴェスター・コンサート 2020-2021	令和2年12月31日	指揮：阪哲朗、司会：桂米團治、ヴァイオリン：服部百音、管弦楽：大阪交響楽団、構成・台本：中村敬一	目標値	1,498
		びわ湖ホール大ホール		実績値	1,125
3	パレルモ・マッシモ劇場 ヴェルディ作曲 歌劇『ナブッコ』	令和2年6月27日 (中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値	1,340
		びわ湖ホール大ホール		実績値	—※
4	ポリショイ・バレエ「スパルタクス」	令和2年11月27日 (中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値	1,345
		びわ湖ホール大ホール		実績値	—※
5	びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演(第71回、第72回)	令和2年9月12日、 令和3年3月27日	【71回】指揮：大川修司、演目：ロッシーニ アヴェ・マリアほか【72回】指揮：沼尻竜典、演目：小林秀雄 落葉松ほか	目標値	527
		びわ湖ホール大ホール		実績値	809
6	びわ湖ホール声楽アンサンブル 日本の美しい歌	令和2年8月10日	演目：琵琶湖周航の歌、昭和・平成のヒットソング、指揮：本山秀毅、独唱：びわ湖ホール声楽アンサンブル、管弦楽：京都フィルハーモニー室内合奏団	目標値	829
		びわ湖ホール大ホール		実績値	742
7	オペラ指揮者セミナーVI～『ヘンゼルとグレーテル』指揮法～	令和2年8月4日、5日、6日	講師：沼尻竜典、管弦楽：大阪交響楽団、ソリスト：森季子ほか、合唱：びわ湖ホール声楽アンサンブル	目標値	323
		びわ湖ホール大ホール		実績値	367
8	イタリア声楽曲研修Ⅲ	令和2年8月30日、31日 (中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値	221
		びわ湖ホール小ホール		実績値	—※
9	令和2年度 びわ湖ホール舞台技術研修～人材育成講座～	令和2年5月から令和3年3月	演出家：ごまのはえ、振付：山田レイ、演技指導：劇団ニットキャップシアター	目標値	300・100
		びわ湖ホールほか		実績値	466・137
10	地域協働公演 サリヴァン作曲 オペラ『ミカド』	令和2年10月から11月 公演予定(中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値	2,400
		滋賀県立文化産業交流会館ほか3会場		実績値	—※
11	びわ湖ホール 音楽会へ出かけよう！(ホールの子事業)	令和2年6月9日、10日、11日、15日、16日、17日(中止)	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値	11,000
		びわ湖ホール大ホール		実績値	—※
12	子どものための管弦楽教室 第17回	令和3年3月21日	曲目：ビゼー「カルメン」組曲よりほか、指揮：藤岡幸夫、管弦楽：関西フィルハーモニー管弦楽団、司会：空井仁美	目標値	944
		びわ湖ホール大ホール		実績値	704
13	気軽にクラシック	令和2年9月6日、28日、令和3年2月20日、3月14日	出演者：田中正也、上村文乃、沼尻竜典、小谷口直子、迎肇聡、關口康祐	目標値	1,084
		びわ湖ホール小ホール		実績値	924



番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
14	円熟を聴く	令和2年8月29日 (中止)	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値	542
		びわ湖ホール小ホール		実績値	—※
15	アンサンブルの楽しみ～演奏家のつどい～vo. 12	令和2年9月21日	司会・ゲストプレイヤー：Adam、出演：公募で選ばれた8組	目標値	271
		びわ湖ホール小ホール		実績値	168
16	びわ湖ホールロビーコンサート	年度通じて (中止)	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値	2,700
		びわ湖ホールメインロビー		実績値	—※
17	ホスピタルコンサート	令和2年9月16日、24日 ほか2公演中止	出演者：Cattleya Saxophone Quartet、本田千鈴、白石尚美、西川静、亀井友恵、上田明美	目標値	400
		養護老人ホームきぬがさほか		実績値	221※
18	各種講座（オペラ講座・ワークショップ等）	令和2年11月29日ほか7回	講師：東条碩夫、岡田安樹浩、伊東史明、藤野一夫、出演：沼尻竜典、岡田暁生、粟國淳、菅原多敢弘	目標値	977
		びわ湖ホールリハーサル室ほか		実績値	870
19	びわ湖ホール声楽アンサンブル学校巡回公演	令和2年5月8日、11日、12日、14日、15日 (中止)	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値	3,000
		滋賀県内小中学校		実績値	—※
20	ふれあい音楽教室	令和2年10月から11月	出演：びわ湖ホール声楽アンサンブル	目標値	1,000
		滋賀県内小中学校		実績値	783※
21	バックステージツアー「びわ湖ホールまるっとステージツアー」	令和2年11月23日、12月13日	企画：びわ湖ホール事業部	目標値	180
		びわ湖ホール大ホール		実績値	143

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(5) 平成31年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	びわ湖ホールプロデュースオペラ ワーグナー作曲『神々の黄昏』	3月7日、8日	演目：ワーグナー作曲『神々の黄昏』指揮：沼尻竜典、演出：ミヒヤエル・ハンペ ライブ配信視聴者413,513ビュー	目標値	3,173
		びわ湖ホール大ホール		実績値	無観客
2	ジルヴェスター・コンサート 2019-2020	12月31日	指揮：沼尻竜典、司会：桂米團治、ピアノ：牛田智大、管弦楽：大阪交響楽団、演出・構成：岩田達宗	目標値	1,497
		びわ湖ホール大ホール		実績値	1,636
3	エイフマン・バレエ『アンナ・カレーニナ』	7月13日	演目：アンナ・カレーニナ、音楽：P.I. チャイコフスキー、振付：ポリス・エイフマン	目標値	1,430
		びわ湖ホール大ホール		実績値	1,025
4	アリーナ・コジョカル <ドリームプロジェクト 2020>	2月11日	主な出演：アリーナ・コジョカル、セルゲイ・ポルーニン、ヨハン・コボー、木村和夫、東京バレエ団ほか	目標値	1,430
		びわ湖ホール大ホール		実績値	1,350
5	びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演（第69回、第70回、東京公演 vol.11）	9月14日、16日	【第69回/東京公演】指揮・ピアノ：寺嶋陸也、演目：林光 宮沢賢治の詩によるソングアルバム 【第70回】中止	目標値	952
		びわ湖ホール小ホール/東京文化会館		実績値	894
6	スタインウェイ“ピノ”シリーズ vol.6	7月6日	ピアノ・解説：園田隆一郎、出演：竹内直紀、二塚直紀、山本康寛	目標値	287
		びわ湖ホール小ホール		実績値	272
7	沼尻竜典オペラ指揮者セミナーV	8月5日、6日、7日	講師：沼尻竜典、ピアノ：平塚洋子、湯浅加奈子、管弦楽：大阪交響楽団、ソリスト・合唱：松森 治ほか	目標値	301
		びわ湖ホール大ホール		実績値	434
8	イタリア声楽曲研修	8月22日、23日	受講者：びわ湖ホール声楽アンサンブル、講師：山崎美奈、ピアノ：岡本佐紀子	目標値	127
		びわ湖ホール小ホール		実績値	214
9	びわ湖ホール舞台技術研修～人材育成講座～	5月～3月（一部中止）	講師：ごまのはえ、振付：山田レイ 演技指導 劇団ニットキャップシアター	目標値	127
		びわ湖ホールほか		実績値	中止（公演部分）
10	子ども向けオペラ『泣いた赤鬼』	10月16日ほか10回	指揮：大川修司、演出：岩田達宗、演出助手：奥野浩子、ピアノ：掛川歩美、小林千夏、大村夢 出演：びわ湖ホール声楽アンサンブル	目標値	2,730
		高時小学校ほか		実績値	2,770
11	びわ湖ホール 音楽会出かけよう！	5月28日ほか5回	指揮：ステファン・ブルニエ、管弦楽：京都市交響楽団、独唱・合唱：びわ湖ホール声楽アンサンブル	目標値	11,000
		びわ湖ホール大ホール		実績値	10,948
12	子どものための管弦楽教室 第16回	3月22日予定（中止）	指揮：藤岡幸夫、管弦楽：関西フィルハーモニー管弦楽団	目標値	1,003
		びわ湖ホール大ホール		実績値	中止
13	気軽にクラシック	8月29日、9月23日、11月2日、12月16日	出演者：二塚直紀、植松さやか、酒井夕彩、岡本伸一郎、石上真由子、奥田なな子、黒川冬貴、ほか	目標値	1,084
		びわ湖ホール小ホール		実績値	1,182

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
14	アンサンブルの楽しみ ～演奏家のつどい～	10月14日	司会：中谷満 出演：公募により選ばれた10組およびゲストプレイヤー石上真由子ほか3名	目標値	271
		びわ湖ホール小ホール		実績値	266
15	ホスピタルコンサート	10月2日ほか3回	出演者：古延佑里子、青木浅間、飯島幸子、島影聖人、中西恵子、岩田玲奈、小林千夏、脇阪法子、小林朱音	目標値	200
		県内医療機関4か所		実績値	380
16	各種講座（舞台芸術講座、オペラ講座、ワークショップ）	4月20日ほか11回	講師：青山登志和、東条碩夫、岡田安樹浩、伊東史明、藤野一夫	目標値	720
		びわ湖ホールリハーサル室ほか		実績値	1,301
17	びわ湖ホールロビーコンサート	7月3日ほか15回	出演：片岡リサ、葉衛陽、しままなぶ、津國直樹、中嶋康子、船橋美穂、川北朋、曾我香織、初瀬川未雪 ほか	目標値	5,500
		びわ湖ホールメインロビー		実績値	4,271
18	ふれあい音楽教室	9月20日ほか7回	出演：びわ湖ホール声楽アンサンブル	目標値	900
		県内小学校（25クラス）		実績値	782
19	びわ湖ホール声楽アンサンブル学校巡回公演	5月9日、10日、15日	出演：びわ湖ホール声楽アンサンブル	目標値	3,000
		県内小中学校（6校）		実績値	1,813
20	バックステージツアー	6月22日、2月1日	企画：びわ湖ホール事業部	目標値	200
		びわ湖ホール大ホール		実績値	176

(6) 平成30年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	びわ湖ホールプロデュースオペラ ワーグナー作曲『ジークフリート』	3月2日、3日	演目：ワーグナー作曲『ジークフリート』、指揮 沼尻竜典、演出ミヒヤエル・ハンペ	目標値	2,672
		大ホール		実績値	3,344
2	英国バーミンガム・ロイヤルバレエ団『眠れる森の美女』	5月13日	演目：眠れる森の美女、主な出演者：佐久間奈緒、厚地康雄、英国バーミンガム・ロイヤル・バレエ団	目標値	1,480
		大ホール		実績値	1,333
3	フィリップ・ドゥクフレ/DCA「新作短編集(2017)」	7月14日、15日	演出・振付：フィリップ・ドゥクフレ、主な出演者：フィリップ・ドゥクフレ、カンパニーDCA	目標値	912
		中ホール		実績値	725
4	ジルヴェスター・コンサート2018-2019	12月31日	指揮 沼尻竜典、司会、桂米團治、ヴァイオリン独奏 戸田弥生、管弦楽 大阪交響楽団	目標値	1,530
		大ホール		実績値	1,385
5	スタインウェイ“ピノ”シリーズ vol.5 ベルカントティッシモ!	11月23日	ピアノ・解説：園田隆一郎、歌手：松下美奈子、森季子、清水徹太郎、山本康寛	目標値	271
		小ホール		実績値	230
6	沼尻竜典オペラ指揮者セミナーⅣ	8月1日～3日	講師 沼尻竜典、ピアノ 平塚洋子、湯浅加奈子、管弦楽 大阪交響楽団 ほか	目標値	301
		大ホール		実績値	310
7	イタリア声楽曲研修Ⅰ	5月24日、5月25日	講師：山崎美奈、ピアノ：岡本佐紀子	目標値	110
		小ホール		実績値	163
8	びわ湖ホール舞台技術研修～人材育成講座～	3月11日～3月16日	演出：ごまのはえ、振付：山田レイ、演技指導：劇団ニットキャップシアター	目標値	180
		大ホール等		実績値	805
9	びわ湖ホール声楽アンサンブル みんなで作ろう！林光作曲 オペラ『森は生きている』	11月29日、12月6日、8日、12日	演出：中村敬一、ピアノ：寺嶋陸也、出演：びわ湖ホール声楽アンサンブル、地域の合唱団	目標値	3,150
		守山市民ホール、他3か所		実績値	2,098
10	びわ湖ホール 音楽会へ出かけよう！（ホールの子事業）	6月4日、5日、6日、7日、8日、11日	指揮：角田鋼亮、管弦楽：京都市交響楽団、独唱・合唱、びわ湖ホール声楽アンサンブル	目標値	11,000
		大ホール		実績値	9,324
11	子どものための管弦楽教室 第15回	3月24日	指揮：飯守泰次郎、管弦楽：関西フィルハーモニー管弦楽団、独唱：基村昌代、二塚直紀、的場正剛 ほか	目標値	1,003
		大ホール		実績値	851
12	気軽にクラシック	8月20日、12月9日	出演：竹内直紀(8月20日)、Adam サクソフォン四重奏団(12月9日)	目標値	574
		小ホール		実績値	623

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
13	アンサンブルの楽しみ ～演奏家のつどい～ vol.10	10月14日	公募によるプレイヤー10組、ゲストプレイヤー 松村衣里、中山航介	目標値	223
		小ホール		実績値	260
14	びわ湖ホールロビーコンサート	年間計14回	安永 早絵子(打楽器)、石井楓子、イリーナ・メジューエワ、寺嶋陸也、佐藤卓史、岡本佐紀子、伊藤晴ほか	目標値	2,400
		メインロビー		実績値	3,325
15	各講座(舞台芸術講座、オペラ講座、ワークショップ)	年間計12回	講師：青山登志和、東条碩夫、岡田暁生、藤野一夫、田口道子、ほか	目標値	880
		リハーサル室等		実績値	1,754
16	ふれあい音楽教室	全5日16クラス	出演：びわ湖ホール声楽アンサンブル	目標値	900
		県内小学校		実績値	442
17	びわ湖ホール声楽アンサンブル 学校巡回公演	全5日10校	指揮：大川修司、ピアノ：寺嶋陸也、沼光絵理佳、びわ湖ホール声楽アンサンブル	目標値	3,000
		県内小学校		実績値	3,357
18	バックステージツアー「びわ湖 ホールまるっとステージツアー」	8月9日、1月11日	解説：びわ湖ホール舞台技術部職員	目標値	180
		大ホール		実績値	159

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性 (平成30年～令和4年度 5か年分)

#### 自己評価

事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が実施できたか。

当財団は、滋賀県文化振興基本方針に掲げる基本目標「文化芸術の力で心豊かな活力ある滋賀を創る」を実現するため、当財団中期経営計画において、(1)優れた舞台芸術の創造と県内外への発信、(2)、次世代を担う子どもたちの創造性を育む取組の充実、(3)若手芸術家の発掘と育成・支援、(4)県民の主体的な文化活動の支援、(5)文化芸術の力を活かした地域活性化の5つを基本方針として、複合的に事業を展開しています。

これらを踏まえ「びわ湖ホール三方よし創造実践事業」では、①舞台芸術の創造・発信、②舞台芸術にかかわる人材育成、③舞台芸術に親しむ観客の創造をアウトカムとして、令和4年度は本助成対象事業として20事業を計画していました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から1事業の全公演と、2事業の一部公演をやむなく中止としましたが、それ以外の公演では入場者・参加者率が91.15%とコロナ禍にあっても実施方法や演出を工夫するなどにより「芸術文化の灯を消さない」よう事業実施に努めました。

①舞台芸術の創造・発信では、オペラを自主制作し、県内外に舞台芸術を創造発信するとともに、その水準の維持・向上および継承、ノウハウの蓄積を図りました。オペラ講座やワークショップ等の関連企画を客層に合わせて多数展開するなど、初心者から通の方まで幅広い層に対して舞台芸術を鑑賞いただく機会を提供することができました。

②舞台芸術にかかわる人材育成では、「オペラ指揮者セミナー」、「イタリア声楽曲研修」、「びわ湖ホール舞台技術研修」を実施し、若手実演家・舞台スタッフの育成を図り、指揮者や声楽家、舞台の裏方など日本の舞台芸術を支える人材の育成に貢献しました。自主制作のオペラでは、びわ湖ホール声楽アンサンブル・メンバーをはじめ、若手の演奏家を積極的に起用し、経験豊富な指導者・演出家たちと国内でも上演が少ないオペラを作り上げることで、次世代を担う若手演奏家たちがより成長する場を提供することができました。

③舞台芸術に親しむ観客の創造では、「各種講座」や「バックステージツアー」を通じて様々な角度から舞台芸術の楽しみを紹介し、興味・関心を深める機会を提供しました。また、アウトリーチ型事業である「ふれあい音楽教室」、「学校巡回公演」、劇場訪問型公演である「びわ湖ホール 音楽会へ出かけよう！(ホールの子事業)」を滋賀県内の小中学校等を対象に実施し、県内の子どもたちが授業や校外学習の一環としてプロの演奏家による一流の芸術に触れることにより、将来にわたり舞台芸術を愛好する観客の創造に貢献することができました。

平成30年度から令和4年度までの5か年においては、概ね事業計画通り実施することができたものの、計11事業のすべての公演と計14事業の一部公演が中止になるなど、平成31年度末から続く新型コロナウイルス感染症拡大により大きく影響を受けました。しかしながら5か年において、①については助成をいただくことにより、実施方法や演出を工夫しながら毎年度オペラ公演を新制作・上演し、県内外の多くの方に優れた舞台芸術を低価格で提供することができました。②については、びわ湖ホール声楽アンサンブル・メンバーが定期公演や「イタリア声楽曲研修」等を通じて優れた指導者から学び、研鑽を重ねており、日本音楽コンクール声楽部門第1位受賞者や、文化庁芸術祭新人賞受賞者を輩出しました。そのほか、多くの卒団生が日本国内の様々な場所で声楽家として出演の場を得ており、人材育成事業の効果が確実に表れています。③については、「学校巡回公演」や「ホスピタルコンサート」など、特にアウトリーチ型の事業で新型コロナウイルス感染症拡大による公演中止など影響を強く受けましたが、入念な感染症対策のもと、小中学生や病気療養等により劇場での舞台鑑賞が困難な方にも舞台芸術を身近に感じてもらえる機会を提供できており、実施できた公演では好評をいただいています。

## 自己評価

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

### ●文化的意義

びわ湖ホールは、四面舞台をはじめとする優れた舞台機能を有し、年間に複数本のオペラを自主制作する国内でも数少ない劇場の一つです。優れた舞台芸術を次の世代に継承していくためには、こうした自主制作を継続し、舞台制作技術の水準の維持・向上およびノウハウを蓄積・継承していくことが必要不可欠ですが、そのための制作資金の確保と舞台芸術にかかわる人材の育成が課題となっています。これらの課題に対し、当財団では、助成制度の活用や寄付金を得ることにより制作資金を確保するとともに、実演家や舞台スタッフの育成を図っています。中でも、舞台芸術を担う人材を育成するため当ホールで運営するびわ湖ホール声楽アンサンブルは特徴的であり、全国から厳しいオーディションを経て採用されたメンバーは最長5年間の在籍中に定期公演や「イタリア声楽曲研修」などを通じて経験を積み、卒団後は様々な場で声楽家として活躍しています。

また、人材が不足しがちなオペラ指揮者を育成するため「指揮者セミナー」を実施し、全国から募集した若手指揮者に向けてプロのオーケストラとびわ湖ホール声楽アンサンブルのソリストたちを前に、実践的にオペラの指揮を学べる機会を提供しています。オペラ指揮に特化したセミナーは世界的にも珍しく、貴重な学びの機会の提供により、将来日本のオペラ界を支える人材育成に貢献しています。

さらに、びわ湖ホールの日本有数の舞台機構を活用し、舞台作品制作を通じて進行管理、舞台音響、衣裳・映像デザインなどを第一線で活躍するプロから学ぶ「舞台技術研修」では、一般に公募する受講生だけでなく、地域の芸術系大学と連携協定を結び、連携大学の学生は授業の一環として研修に参加するなど、地域の大学生に体験型の学習機会を提供するとともに、大学とホールの双方が持つ専門的知識やノウハウを高めあう場として、地域の芸術文化を担う舞台技術者の育成に貢献しています。

### ●社会的意義

自治体や県教育委員会等の協力を得ながら、びわ湖ホール声楽アンサンブルを核とした鑑賞型・訪問型の普及事業に力を入れています。特に、滋賀県内の小学生などを対象とした「びわ湖ホール 音楽会へ出かけよう！（ホールの子事業）」は、地域の子どもたちに生のオーケストラや声楽に触れていただく機会を提供し、舞台芸術への関心と理解を深めることにより、将来の芸術家、観客を育成し、滋賀県の文化力向上を目指しています。特別支援学校のほか、日系ブラジル人学校など学校教育法によらない学校や、支援団体等と連携して不登校児童についても広く参加いただいております。社会包摂の面からも大きな意義のある活動として継続的に実施しています。来場した子どもたちからは、「生の演奏で聞くことができて感動した」、「指揮者になってみたいと思った」などの声を多数いただいております。

このほかにも「ホスピタルコンサート」、「ふれあい音楽教室」、「学校巡回公演」といったアウトリーチ活動を実施し、普段は病気療養等の理由で生の音楽に触れる機会の少ない方や、遠方などの理由でびわ湖ホールに来場することが困難な子どもたちに一流の歌手・演奏家による音楽に触れていただいております。令和2年度から4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止や歌手との合唱は控えるなど、例年通りの実施とはならなかったものの、手拍子や体を揺らすなど、ともに音楽を楽しむ時間になるよう工夫し、様々な方が身近に舞台芸術に触れることのできる機会を提供しました。残念ながら中止となった施設からも、新型コロナウイルス感染症の感染状況が改善すれば、来年度以降改めてコンサートを実施したいなどの強い要望をいただいております。

毎年年末に実施している「ジルヴェスター・コンサート」では、県民の創造活動参加を促進する取り組みとして合唱やファンファーレ隊の一般公募を実施しています。令和2年度、3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により公募を中止しましたが、3年ぶりに再開した令和4年度は、県内だけでなく近隣府県からも参加者が集

まりました。また、「アンサンブルの楽しみ～演奏家のつどい～」では、一般公募によりアマチュアの音楽家を募り、プロの音楽家と同じ舞台に立っていただくことで、共演者同士の新たな繋がりや観客に舞台との親近感を持っていただく機会となっています。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から令和2年度から4年度はメインロビーで実施する「ロビーコンサート」は開催できませんでしたが、助成をいただいたことで「気軽にクラシック」など低料金や無料の公演を実施でき、舞台芸術に親しむ観客の創造に繋げることができています。

#### ●経済的意義

県内ホールと連携した「地域連携公演」は、かねてより市町ホールとの交流により地方の芸術活動を活性化させる機会となっていました。令和3年度に新制作した「子ども向けオペラ『泣いた赤鬼』」では、滋賀県の伝統的な麻織物をはじめとする特産品をオペラの舞台衣装や小道具に取り入れ、公演の前後に物販コーナーを設けるなどの試みを実施しました。鑑賞を通して滋賀県に根付く昔ながらの地場産業を知っていただく機会となり、地域コミュニティや経済の活性化に貢献しました。

また、「プロデュースオペラ」やびわ湖ホール声楽アンサンブルをはじめ、「名曲コンサート」や「室内楽月間」など、大都市圏と同レベルの公演や関西地区ではびわ湖ホールだけでしか見られない公演の実施により、京阪神をはじめとする県外の方の集客もできたことから、文化芸術の発信地としての滋賀県の魅力を県内外に発信することに貢献できました。



## (2) 有効性 (平成30年～令和4年度 5か年分)

### 自己評価

目標を達成し、アウトカムが発現したか。

#### ●目標

##### ①舞台芸術の創造・発信

優れた舞台機能を活かした大規模オペラ公演の新制作に力を入れ、また、入門向け公演やネットワークを活かした舞踊・演劇公演等、多彩なジャンルの舞台芸術を実施し、県民・関西圏の住民を中心に舞台芸術を発信する。

##### ②舞台芸術にかかわる人材育成

公演・研修事業を通して専属声楽家団体びわ湖ホール声楽アンサンブル・メンバーを一流の「舞台人」へ成長させ、また、人材不足が叫ばれるオペラ指揮者・舞台技術スタッフの育成に努める。

##### ③舞台芸術に親しむ観客の創造

県内小学校などを対象としたホール公演・訪問型公演や県内ホールでの巡回公演、愛好家とのコラボレーション、青少年チケット料金の設定などを将来にわたって行い、舞台芸術を愛好する観客を創造する。

#### ●達成状況

##### ①舞台芸術の創造・発信

令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を強く受け、事業や公演の中止が相次いだことで一時的に公演数が減少しましたが、令和4年度は20事業117公演の自主事業（助成対象外事業を除く）を予定し、19事業98公演を実施するなど、演出や実施方法を工夫しながら鑑賞機会の創造に努めました。「プロデュースオペラ」をはじめ国内外の一流アーティストたちの力を結集し、県民や関西圏の住民に首都圏と同レベルの多彩な舞台芸術に触れる機会を提供しました。

びわ湖ホール自主制作オペラの事業数（助成対象分のみ）

（単位:作品）

	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	実績	実績	実績	実績	目標	実績
プロデュースオペラ	1	1	1	1	1	1

びわ湖ホール自主事業公演数（助成対象分のみ）

	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	実績	実績	実績	実績	目標	実績
びわ湖ホール自主事業 事業数	18	19	13	20	20	19
びわ湖ホール自主事業 公演数	83	93	42	82	117	99

※新型コロナウイルス感染症拡大のため、平成31年度は1事業、令和2年度は8事業、令和3年度は1事業、令和4年度は1事業が中止となりました。

自主公演アンケートにおける「よかった」割合（助成対象分のみ）

	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	実績	実績	実績	実績	目標	実績
自主公演アンケートにおける「よかった」割合	96.8%	97.5%	98.0%	96.3%	97.0%	95.6%

## ②舞台芸術にかかわる人材育成

びわ湖ホール声楽アンサンブルは、「プロデュースオペラ」や「定期公演」等への参加を通じて一流のアーティストやスタッフと共演し、「イタリア声楽曲研修」ではイタリアで活躍する世界的ソプラノ歌手から直々にレッスンを受けるという得難い経験を積むことができました。この5か年で輩出した20名の卒団生は、国内外の公演で活躍しています。また、令和4年度は5人の受講者に対して「指揮者セミナー」を実施し、この5か年の総受講者は24人となりました。「舞台技術研修」では、一般公募により集まった受講者が地域の大学と連携し、実際の舞台作品の制作・実演を通じて舞台技術スタッフなどの技術を学ぶことにより、次世代の人材の育成を図りました。

びわ湖ホール声楽アンサンブル卒団者数

(単位:人)

	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	実績	実績	実績	実績	目標	実績
声楽アンサンブル卒団者数	9	1	3	1	3	6
累計	60	61	64	65	68	71

オペラ指揮者セミナーの受講生数

(単位:人)

	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	実績	実績	実績	目標	実績	目標
指揮者セミナー受講生数	4	5	5	5	5	5

## ③舞台芸術に親しむ観客の創造

平成31年度に実施した「プロデュースオペラ」のライブ配信以降オンライン配信にも力を入れ、「ジルヴェスター・コンサート」や「舞台技術研修」の公演などでは有料のチケット配信を実施しています。感染症拡大への不安や遠方など様々な事情により劇場に足を運ぶことのできない方や、普段は舞台芸術に親しみがなく劇場での鑑賞は敷居が高いと感じている方にも気軽に舞台芸術に触れていただける機会となり、新規観客の獲得にもつながっています。滋賀県内の子どもたちに舞台芸術に親しみを持ってもらうことを目的として実施した「びわ湖ホール 音楽会へ出かけよう！（ホールの子事業）」、「学校巡回公演」、「ふれあい音楽教室」は、令和2年度以降新型コロナウイルス感染症拡大の影響で一部公演の中止や内容変更を余儀なくされましたが、令和2年度にはコロナ禍により入学式や卒業式などで校歌を歌う機会が減ってしまった子どもたちのために、びわ湖ホール声楽アンサンブルが歌唱した校歌を収録した音源を無料で県内の163の小学校に配布し、令和3年度以降は感染症対策を万全にとったうえで県内の子どもたちに一流の演奏家による生の音楽を届けることができました。このほかにも、低廉なチケット料金が魅力の「気軽にクラシック」や、一部公演では青少年向けの割引料金を設定することにより、新しく劇場に足を運んでいただけるお客様の開拓に努めました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で多くの公演が中止となった令和2年度には入場者・参加者数が大幅に減少したものの、令和3年度以降は概ね増加傾向で推移しています。びわ湖ホールの公演情報がいち早く届き、公演チケットの先行販売や優待料金でご購入いただける会員制度「びわ湖ホール友の会」では、主催公演やゲネプロへの招待が受けられるサポート会員、特別会員の数がこの5か年でも着実に増加しており、当ホールの事業を評価し、公演を心待ちにして下さるファンの方は年々増加していることが認められます。

助成対象事業入場者・参加者数

(単位:人)

	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	実績	実績	実績	実績	目標	実績
来場者数	30,488	29,714	9,702	23,966	26,323	28,707

小中学生向け事業参加者児童数

(単位:人)

	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	実績	実績	実績	実績	目標	実績
音楽会へ出かけよう!	9,324	10,948	0	7,785	14,000	10,781
学校巡回公演	3,357	1,813	0	1,065	3,000	1,309
ふれあい音楽教室	442	782	783	963	1,000	2,389
計	13,123	13,543	783	9,813	18,000	14,479

びわ湖ホール友の会会員数

(単位:人)

	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	実績	実績	実績	実績	目標	実績
一般会員 (年会費2,500円)	3,174	3,342	2,849	2,925	3,350	2,787
サポート会員 (年会費10,000円)	308	355	337	370	390	428
特別会員 (年会費100,000円)	119	119	128	138	140	149

※一般会員は制度変更のため一部新規受付を停止し、サポート会員や特別会員への変更等を推奨しているため、会員数が減少しています。

以上のことから、概ね目標を達成できたものと考えます。

●ロジックモデル

インプット	アクション	アウトプット	アウトカム
<ul style="list-style-type: none"> <li>○助成金・補助金 (日本芸術文化振興会、民間助成、県補助金等)</li> <li>○指定管理料</li> <li>○チケット収入等</li> <li>○寄付金・賛助金等</li> <li>○「びわ湖ホール声楽アンサンブル」、専属舞台スタッフ</li> <li>○ホール施設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○公演・事業制作</li> <li>○声楽アンサンブル運営</li> <li>○広報活動</li> <li>○地域団体・教育機関との積極的連携・協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○音楽公演→新制作によるレパートリー創造</li> <li>○研修事業→人材の輩出 (音楽家・スタッフ)</li> <li>○普及事業→初めて触れる舞台芸術体験の提供、新たな観客の創造、地域との繋がり強化</li> <li>○配信映像による新しい鑑賞体験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○より優れた舞台芸術の創造・発信</li> <li>○国全体における音楽・舞台技術者レベルの底上げ</li> <li>○舞台芸術を愛好する鑑賞者の増加</li> <li>○地域 (人・産業) の活性化</li> </ul>

### (3) 効率性 (平成30年～令和4年度 5か年分)

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに実施できたか。

「プロデュースオペラ」については、開館以来 20 年以上かけて蓄積したノウハウを活かし、これまで継続して上演を実施してきました。この5か年では、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和2年度以降は舞台装置を製作し、演出を凝らす本格的なオペラ上演を控えて「セミ・ステージ形式」で上演しました。これにより、稽古・本番時の“密”の回避や稽古回数を減らすことができ、出演者やスタッフなど関係者の単発的な感染は発生したもののクラスター発生等の大きな混乱はなく、約1か月というオペラとしては短い期間で制作することができました。

このほかの事業では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により助成対象事業のうち平成31年度の1事業、令和2年度の8事業、令和3年度の1事業、令和4年度の1事業を中止しました。また、平成31年度の3事業、令和2年度の3事業、令和3年度の6事業、令和4年度の2事業で予定していた一部公演を中止するなど、新型コロナウイルス感染症拡大の影響は大きかったといえます。一方で実施できた事業では、演出方法の工夫や稽古・本番時の感染対策の徹底などにより、概ね当初の予定通りに実施することができ、助成対象事業の公演アンケートで「よかった」以上の回答は 95.6%と多くの方に好評いただきました。なお、新型コロナウイルス感染症の影響があった事業は以下のとおりです。

#### 【平成31年度】

番号1(プロデュースオペラ):感染拡大防止のため無観客公演とし、その模様を無料ライブ配信しました。

番号5(びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演):感染拡大防止のため、第70回公演を中止しました。

番号12(子どものための管弦楽教室):感染拡大防止のため、中止しました。

番号9(舞台技術研修):感染拡大防止のため、観客を入れての成果発表を中止しました。

番号16(各種講座):感染拡大防止のため、3月に実施予定だったオペラワークショップを中止しました。

#### 【令和2年度】

番号3(歌劇『ナブッコ』)、番号4(ポリショイ・バレエ)、番号10(地域協働公演)、番号11(ホールの子事業)、番号14(円熟を聴く)、番号16(ロビーコンサート)、番号19(学校巡回公演):感染拡大防止のため、中止しました。

番号8(イタリア声楽曲研修):感染拡大により講師の来日が困難となったため、中止しました。

番号17(ホスピタルコンサート):感染拡大防止の観点から、病院側の意向により中止となりました。

番号18(各種講座):感染症拡大防止のため、予定していた12講座のうち、4講座を中止しました。

番号20(ふれあい音楽教室):感染拡大防止のため、県内公立中学校(1校)への巡回公演が中止となりました。

#### 【令和3年度】

番号5(大人の楽しみ方):予定していた4公演のうち1公演で感染拡大による入国制限のため出演者が来日できず、中止となりました。

番号15(ロビーコンサート)、番号16(ホスピタルコンサート):感染拡大防止のため、中止しました。

番号18(ふれあい音楽教室):感染拡大により、予定していた31校のうち15校への巡回公演が中止となりました。

番号19(学校巡回公演):感染拡大により、予定していた10校のうち1校への巡回公演が中止となりました。

番号20(地域連携公演):感染拡大により、予定していた3か所のうち2か所での公演(計4公演)が中止となりました。

番号21(バックステージツアー):夏季と冬季に予定していましたが、感染拡大により冬季の実施を中止しました。

#### 【令和4年度】

番号6(室内楽月間):感染拡大により、予定していた4公演のうち2公演を中止しました。

番号15(ロビーコンサート):感染拡大防止の観点から中止しました。

番号16(ホスピタルコンサート):感染拡大により、予定していた3施設のうち2施設での公演を中止しました。

## 自己評価

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに実施できたか。

この5か年では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受け、事業そのものの中止や一部公演の中止が相次いだことにより、5か年通しての要望比は69.48%でした。一方で年別にみると、コロナ禍前の平成30年度は91.01%、コロナ禍以降の平成31年度は72.55%、8事業が中止となった令和2年度は27.65%でしたが、令和3年度は77.48%と前年までの結果を踏まえてより効率的な事業の執行に努め、令和4年度には92.51%と依然コロナ禍にある中でも概ね計画通り実施することができました。特に事業計画中に毎年実施する「プロデュースオペラ」は年に一度びわ湖ホールが総力を挙げて実施する大規模公演であり、作品の上演に高度な演奏技術と演技力が要求されること、長時間に及ぶ稽古が必要であること、その間多くの演奏家や舞台スタッフが拘束されることによりほかの事業に比べて事業費が大きくなりますが、令和2年度、3年度を経て同じ「セミ・ステージ形式」を取った令和4年度は要望比103.14%という予算消化率を達成しました。「セミ・ステージ形式」は、稽古・本番時の“密”を回避するために舞台演出を工夫し、大幅に稽古回数を減らすというコロナ禍であることを考慮した苦肉の策ではあったものの、クオリティやお客様の満足度が下がらないよう多くの工夫を凝らしたことで、事業費を通常時の2分の1程度に抑えつつもほぼ積算通りの予算で事業を実施し、かつ令和4年度の公演アンケートでは94.9%の方に「よかった」と思っていただけの公演を実施できました。そのほかにも「ジルヴェスター・コンサート」や「びわ湖ホール 音楽会へ出かけよう！（ホールの子事業）」など、びわ湖ホールが長年実施している公演については概ね積算通りの支出を行うことができました。

一方で、新型コロナウイルス感染症の状況改善を見込み、感染対策を十分講じた上で実施を計画していた「ロビーコンサート」は、ウイルスの変異等により感染の波ごとに想定以上の感染者数が発生したことで令和2年度から4年度まで3年連続で事業自体の中止という結果となりました。渡航制限が厳しかった令和2年度、3年度には当初予定していた海外からの出演者の招聘が叶わず、「大人の楽しみ方」や「イタリア声楽曲研修」などで公演の中止や国内在住の出演者に変更するなどにより渡航・出演にかかる費用が大きく減少しています。当初から国内在住の出演者を予定していたこのほかの事業でも、接触機会を減らして稽古中のクラスター等を避けるため、稽古日程の短縮などにより「びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演」などでは旅費・交通費が要望時より減少しました。また、関西圏ひいては国内全体の公演数が減少したことによりチラシの挟み込み機会が減少し、印刷するチラシ部数が要望時の想定よりも減少したため、「スタンウェイ“ピノ”シリーズ」をはじめ令和2年度以降は全体的に印刷費や宣伝費が減少しました。アウトリーチ型事業である「ホスピタルコンサート」、「ふれあい音楽教室」、「学校巡回公演」では、クラスター発生の不安などから令和2年度以降は多くの訪問先が自主的に中止の判断をされるなど、感染拡大の影響を特に大きく受け、要望時と比べ決算額が大幅に減少しましたが、令和4年度の「ふれあい音楽教室」では、要望時の想定以上の学校に申請いただいたことで出演料や交通費が増加し、要望時と比べて決算額が28.46%増となりました。これは、実施時期が感染の大きな波と波の間であったことや、ほかのアウトリーチ型事業に比べクラス毎の小規模な人数で実施する事業であるため、感染対策が講じやすかったことなどの理由によるものと考えられます。

このように、平成31年度の新型コロナウイルス感染症発生以降、実演舞台芸術を取り巻く環境は大変厳しいものであり、当ホールでも多くの事業中止や変更を迫られたところですが、開館以来20数年かけて蓄積した経験と「セミ・ステージ形式」などコロナ禍で新たに得たノウハウをもとに、令和2年度を底に令和3年度、4年度と徐々に要望時と決算時の乖離は小さくなっており、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中でも適切な予算執行に努めました。

#### (4) 創造性 (平成30年～令和4年度 5か年分)

##### 自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性に優れている(と認められる)か。

##### ①独創性

当ホール専属のびわ湖ホール声楽アンサンブルは、全国から厳しいオーディションを経て選ばれた満30歳以下の若手声楽家で構成される日本初の公共ホール専属の声楽家集団であり、ホール開館の年に設立して以降、事業計画に掲げる「プロデュースオペラ」や「定期公演」への出演のほか、県内外の学校を対象にした「学校巡回公演」などのアウトリーチ事業等、普及活動にも積極的に取り組んでいます。個々がソリストとして活躍できるプロの声楽家であることから名だたる指揮者・作曲家たちの信頼を集めており、新作合唱曲の初演や他の団体では演奏困難な難曲の演奏もしています。中でも令和3年度の「第73回定期公演」にて委嘱・初演を行った寺嶋陸也作曲「年を忘れた少年の歌」は令和4年度に楽譜が出版され、日本中の学校や合唱団で演奏されるきっかけを作りました。人材育成機関としても機能しており、各事業における一流のアーティスト・指導者との豊富な共演機会や「イタリア声楽曲研修」で世界的歌手からの指導を受けるなどの経験は、メンバーの声楽家としてのステップアップに寄与していると考えます。この5か年では20名が活動期間を終えて卒団し、過去在籍したメンバーは70名を超えました。彼らはそれぞれが声楽家として国内外で活躍するとともに、びわ湖ホール声楽アンサンブルソロ登録メンバーとして現役生とも共演するなど、当ホールの創造活動の核となっています。

また、令和4年度まで当ホールの芸術監督を務めた沼尻竜典は世界第一線級の指揮者であり、「プロデュースオペラ」をはじめ、当ホールの自主制作公演の企画・芸術的助言を行うことでオリジナリティと高い水準が確保された公演を実施しました。自らが講師を務めた「指揮者セミナー」は、世界的にも珍しいオペラ指揮者に特化したセミナーとして、開館以降オペラ制作を行ってきたびわ湖ホールならではの貴重な学びの機会を提供しました。

##### ②新規性

事業計画中に毎年実施する「プロデュースオペラ」は年に一度びわ湖ホールが総力を挙げて実施する大規模公演ですが、新進演出家の起用や国内では公演機会の少ない難曲を日本人キャストメインで公演するなど、オペラの新地平を切り拓く試みを続けています。特に平成31年度には「びわ湖リング」と銘打ち、4年かけて新制作した《ニーベルングの指環》ツィクルスを外国人スタッフたちと協働のもと関西で初めて達成しました。最終回であった平成31年度の『神々の黄昏』公演は、新型コロナウイルス感染症の影響でお客様を迎えての上演は叶いませんでしたが、無観客公演で実施しその模様を無料ライブ配信することで、オペラに慣れ親しんだ方はもとより今までオペラを鑑賞したことがなかった方、県内・関西圏の方だけでなく日本国内外の方にも広く鑑賞いただく機会となり、オペラ鑑賞者の裾野拡大に貢献しました。このことは、世界中でオペラ上演のライブ・アーカイブ配信がニューノーマルとなっていく端緒となったと考えています(第68回菊池寛賞受賞)。

令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の拡大により、外国人キャストの渡航制限や“密”回避のための稽古日数削減などもあり、これまでと同じ方法ではオペラの新規制作が困難であると判断し、「プロデュースオペラ」でいち早く「セミ・ステージ形式」を取り入れました。びわ湖ホール声楽アンサンブルや芸術監督で指揮者の沼尻竜典を中心に演出を工夫して実現した「プロデュースオペラ」は令和2年度、3年度、4年度とも好評をいただき、厳しい制限下においても質の高い鑑賞体験ができることを国内外に証明しました。今では「セミ・ステージ形式」での上演が日本中で行われています。

### ③先導性

参加者が実際に公演を作り上げる参加型の「舞台技術研修」では、四面舞台を備えた国内有数の舞台機構をフルに活用し、舞台芸術を支える人材の育成や参加者同士の意見交換・交流の機会となることを目標に実施しました。一般公募による受講者のほかに連携協定を結ぶ地域の芸術系学科を有する大学から学生も参加し、また人材育成の講習会のモデルケースとして運営ノウハウを学ぶ目的で、全国各地の劇場からも関係者の参加を得ました。様々な立場の参加者がともに一つの公演を作り上げる参加型研修であることから、当ホールの舞台技術職員をはじめとする講師陣が有する技術やノウハウを一方向的に伝えるだけでなく、双方が交流し、舞台技術に関する視野を広げ、異なる意見や考え方を吸収してお互いの技能向上につながる場となっています。参加者からは「自分の仕事にも活かせる経験になった」、「将来舞台関係の仕事に就きたい」などの感想をいただいております。技術力の向上や今後の舞台芸術を支える技術者の育成に寄与することができたと考えます。

## 自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながった（と認められる）か。

5か年計画では、びわ湖ホール「三方よし」の実現を目指し、3つの目標を持って事業に取り組みました。1つ目は「舞台芸術の創造・発信」で、最も力を入れている「プロデュースオペラ」では、平成31年度に完結したワーグナーの大作《ニーベルングの指環》全四作から、「セミ・ステージ形式」での《ローエングリン》（令和2年度）、《パルジファル》（令和3年度）、《ニュルンベルクのマイスタージンガー》（令和4年度）と引き続きワーグナー作品を上演して好評を得ました。好評を得ることができている要因の一つとして、公演に先立ち作品の背景や歴史を学ぶプレトークやワークショップなどの「各種講座」により、初めての方でも抵抗なく公演を楽しんでいただけるような伴走型の事業を実施していることが考えられます。また、平成31年度の『神々の黄昏』無観客公演のライブ配信以降、オンライン配信やSNSでの情報発信にも注力し、様々な理由で劇場に足を運ぶことができないお客様やネット世代の若者へのアプローチを行っています。国内だけでなく国外にもリーチしうる配信事業は大きな話題となり、特に『神々の黄昏』のライブ配信は世界中で41万人もの方の視聴を得て、当ホールのオペラ制作・上演能力を国内外に向けて強力に発信し、日本を代表するオペラハウスとしての認知度向上につながりました。この公演は「コロナ時代の文化イベントのありかたに一石を投じた」（参照：公益財団法人日本文学振興会ホームページ「菊池賞受賞者一覧」<https://www.bunshun.co.jp/shinkoukai/award/kikuchi/list.html>）として評価いただき、令和2年度に第68回菊池寛賞を公共ホールの音楽企画として初めて受賞することができました。その他、令和3年度には第51回ENEOS音楽賞（沼尻竜典芸術監督と同時）も受賞するなど、「創造し発信する劇場」として当ホールの舞台芸術を高く評価いただいていると考えています。

2つ目の「舞台芸術を支える人材の育成」では、世界的に珍しいオペラ指揮者に特化した「指揮者セミナー」を実施し、経験豊かなプロのオーケストラやびわ湖ホール声楽アンサンブルを前に指揮をするという非常に貴重な機会を受講生に提供してその様子を一般公開しました。「舞台技術研修」では、公演参加型の研修を実施し、一般公募により集まった参加者と、授業の一環として参加した連携大学の学生たちが約1年かけて国内有数の舞台機構を活用してびわ湖ホールのスタッフとともに実際の公演を制作し、最終日には成果発表公演として一般公開しました。公演後のアンケートでは「受講生の成長がみられるのがうれしい」、「舞台に関わった方の熱意が感じられた」など公演を鑑賞されたお客様からも好評の声を、参加者からも「ぜひ継続してほしい」などの声をいただきました。さらに、びわ湖ホールの創造活動の核としてびわ湖ホール声楽アンサンブルを「プロデュースオペラ」をはじめ各事業に登用し、多くの舞台・事業の経験を積ませることで若手声楽家の育成につながっています。令和2年度に第33回ミュージック・ペンクラブ音楽賞オペラ・オーケストラ部門賞を受賞した際には、「びわ湖ホール声楽アンサンブルは名歌手輩出のプラットホームに発展した」（参照：「2020年第33回ミュージック・ペンクラブ音楽賞受賞者一覧」<http://musicpenclub.com/prize/prize33.pdf>）との評を受け、これからの舞台芸術を支える人材の育成という面でも評価いただいています。

3つ目の「舞台芸術に親しむ観客の創造」では、「びわ湖ホール 音楽会へ出かけよう！（ホールの子事業）」や「学校巡回公演」など、県内の子どもたちが学校教育の一環として舞台芸術に親しむ機会を創る事業を実施しました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を強く受け、この5か年では一部公演の中止や内容の変更を余儀なくされましたが、学校側と調整のもと感染対策を十分に施したうえで可能な限り実施できるよう努めました。学校側からも「毎年楽しみにしている」、「来年度もお願いしたい」などの声をいただいております。令和4年度の「ふれあい音楽教室」では要望時の想定であった18校を大幅に超える実施希望をいただき、34校で子どもたちがプロの歌声に触れる体験を提供することができました。子どもたちからは「また聴きたいのでびわ湖ホールへ行ってみたいと思った」、「教えてもらった通りに歌ったらきれいな声で歌えてうれしかった」などの声をいただき、観客の創造という観点での評価向上につながったと考えています。



(5) 持続性 (平成30年～令和4年度 5か年分)

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する(と認められる)か。

この5か年では、平成31年度から新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、事業や公演を中止にせざるを得ないなど舞台芸術を取り巻く環境は大変厳しいものとなりました。当ホールではこの中であってもライブ・アーカイブ配信や「セミ・ステージ形式」の採用など工夫を凝らし、「芸術文化の灯を消さない」を合言葉に事業実施に努めました。その結果、開館以来20数年かけて蓄積してきた知識・経験を基礎としつつ、こうしたコロナ禍での公演ノウハウの蓄積によって舞台芸術の持続性を確保できました。これらの経験は「指揮者セミナー」、「舞台技術研修」などを通じて次世代の舞台人に継承され、当ホールひいては地域の舞台芸術の持続的な発展につながると考えています。

	P l a n	D o	C h e c k	A c t i o n
事業運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「びわ湖ホール声楽アンサンブル」を核としたオペラ公演の複数年計画</li> <li>●理事会、評議員会での有識者との意見交換</li> <li>●外部アドバイザーとの協働による企画選定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●公演制作</li> <li>●広報活動</li> <li>●配信による新規観客の創造</li> <li>●SNS・広告等での積極的な情報発信</li> <li>●公演関連講座やWS等の積極的な開催</li> <li>●地域団体との積極的コラボレーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●公演後アンケート(紙、Web)の統計化</li> <li>●予算・事業費の管理</li> <li>●SNS広報効果の測定(フォロー、インプレッション数)</li> <li>●自治体・地域団体との相互フィードバック</li> <li>●連携による成果の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●前年度と連続性のある企画(リピート客を増やす工夫)</li> <li>●新規事業への挑戦</li> <li>●よりターゲティングされた広報活動</li> <li>●地域の芸術活動に寄与する活動の増加</li> <li>●自館の事業へのノウハウ応用</li> </ul>
経営戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>●芸術的価値と社会的意義を両輪とした事業計画の策定</li> <li>●公的助成金・民間助成金の積極的活用</li> <li>●寄付金の募集</li> <li>●協賛金、賛助会員の拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●助成金の趣旨に合致した事業の申請</li> <li>●施設・HP等での寄付金募集の呼びかけ</li> <li>●訪問・各種媒体での営業活動による協賛金の募集</li> <li>●新たなオフィシャルスポンサー・公演スポンサーの獲得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●助成採択結果をふまえての申請内容・事業内容見直し</li> <li>●寄付金・協賛金利用状況の管理</li> <li>●寄付者・協賛者との協議(フィードバック)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業内容の向上に基づくより効率的な助成金申請</li> <li>●寄付・協賛の継続に繋がる価値・サービスの創造</li> <li>●新規寄付者・協賛者の開拓</li> </ul>
人事戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>●県内の文化施策を牽引する芸術集団にふさわしい組織力の強化</li> <li>●財団内を超えた知識・ノウハウの共有</li> <li>●将来を担う若者たちを育成する事業の創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●財団が運営する別の館との人事交流</li> <li>●ホールスタッフが研修に講師登壇</li> <li>●声楽アンサンブル運営、近隣大学との提携による研修、インターンシップ受け入れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人事交流対象者へのヒアリング</li> <li>●セミナー実施後のアンケートによるフィードバック</li> <li>●大学生・インターンシップ申込大学からのフィードバック</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●館同士の強みを結集した組織作りの実現</li> <li>●より積極的に共有の機会を持つ</li> <li>●より将来に資する研修内容の実施</li> </ul>

## 自己評価

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

持続的なアウトカムの発現・定着には持続的なインプットの増強が不可欠と考え、①人材の育成および確保、②助成金・補助金の積極的な獲得、③寄付金・協賛金、会員の確保、④地域との連携強化に努めています。

### ①人材の育成および確保

当ホールの創造活動の核であるびわ湖ホール声楽アンサンブルは、最大5年間の在籍期間を通して一流の「舞台人」となるよう人材育成機関としても機能しており、「プロデュースオペラ」や「定期公演」等での一流アーティスト・スタッフとの共演や、「イタリア声楽曲研修」等のセミナーによって声楽家としての育成を図っています。舞台スタッフについても事業を通じて技術の習熟に励むだけでなく、「舞台技術研修」や「バックステージツアー」によって他ホールや学生との技術交流や、他者に『教える』ことでより視野を広げ、知識を深める機会に繋げています。

### ②助成金・補助金の積極的な獲得

助成対象事業の中でも特に物的・人的リソースを必要とする「プロデュースオペラ」では、予算の獲得のために民間助成にも募集し、令和4年度は3団体から180万円の助成をいただいたほか、県内の文化財団より生の音楽を直接鑑賞することにより得られる感動体験を通して芸術文化のすばらしさを体感してもらい、地域の子どもたちの新たな感性の扉を開く機会となるという「学校巡回公演」の理念をご理解いただき、30万円の助成をいただいています。また、県および教育委員会と連携のもと実施する「びわ湖ホール 音楽会へ出かけよう！（ホールの子事業）」では、事業費にかかる半額程度を県補助金で賄うなど、収支状況の健全化に努めています。

### ③寄付金・協賛金・会員の確保

びわ湖ホール友の会やびわ湖ホール舞台芸術基金、オフィシャルスポンサー制度や企業協賛などにより、新たな財源確保を目指しています。当ホールの公演情報がいち早く届き、公演チケットの先行販売や優待料金でご購入いただける会員制度「びわ湖ホール友の会」では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により多くの公演が中止となった令和2年度には減少しましたが、コロナ禍で苦しい劇場を応援しようという声は徐々に増えており、令和4年度にはサポート会員に428名、特別会員には149名（それぞれ法人を含む）の方に登録いただいています。サポート会員や特別会員は主催公演やゲネプロへの招待が受けられることから、会員の皆様にはより深く当ホールの公演に触れていただき、より当ホールの事業に愛着を持っていただける仕組みになっています。

### ④地域との連携強化

令和3年度に実施した「地域連携公演」では、訪問先の合唱団・児童合唱団とコラボレーションするだけでなく、地域の名産品を衣裳や小道具に取り入れるなどの取り組みを通して、舞台芸術と地域文化双方への興味関心を喚起する総合的な地域の支援・活性化事業となるよう努めました。残念ながら一部公演が新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりましたが、地元企業からの寄付・協賛や地場産業とのコラボレーション等、今後も互恵的パートナーシップを築くための礎となったと考えます。

以上のように持続的なインプットの増強を図ることで持続的なアウトカムの発現・定着が期待でき、県民が舞台芸術に親しむ機会を提供するとともに舞台芸術の振興および普及を図り、県民の文化の向上に資するという当ホールの設置目的達成も期待できるものと考えます。